

みやぎ sun

Vol.39
2022 summer

台ヶ森焼のうつわを作ろう

物振協の社会科見学

特集

経営の担い手にインタビュー VUCAを生きる・2

蜂屋食品株式会社 蜂屋 和彦 さん

大崎市ひまわりの丘

古くから人々の生活の中にあり、その明るい色で季節を彩ってきたひまわりは、まさに太陽の花。ひまわりの丘では、今年も7月下旬からひまわりまつりが開催されます。ひまわりのソフトクリームをいただきながら、ビタミンカラーに元気をもらいます。

さて、日本にひまわりが伝わるのは、さらに歴史を下った江戸時代の寛文年間（1661～1673年）。江戸中期の絵師伊藤若冲や、後期では酒井抱一もひまわりを描いています。若冲のひまわりの繊細な描写や、抱一の洒脱な表現には、ビビットなイメージとは違った、ひまわりの新たな魅力に気付かされます。

子どもの頃は、夏になるとあちこちでひまわりが咲いていた記憶があります。小学校で育てていた、という方もおられるでしょう。身近な花であるひまわりですが、その歴史はとても古いことをご存じでしょうか。

遡ること紀元前。原産地の北アメリカでは、先住民族がひまわりを食用としており、種は主食としてだけでなく、その油も生活に欠かせないものでした。また、13世紀頃から南アメリカで栄えたインカ帝国の太陽神崇拜において、ひまわりは太陽の花として尊ばれていました。

その後、1569年頃にスペイン人医師がひまわりの種を持ち帰り、ヨーロッパ中に伝わったと言われています。アンドルシア地方の有名なひまわり畑は、それに由来しているのですね。

日常を照らす太陽の花